

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立城東小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国語	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前学年で学習した漢字の読み書きについて、定着が不十分な児童が見られる。 ・第5学年の言葉の学習における修飾語の理解や語彙の理解、漢字辞典の使い方が目標値を下回っている。 ・第6学年の「登場人物の心情について、描写を基に捉えている。」「文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。」という2つの項目で誤答が多く、物語の読み取りに課題が見られた。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年においても、前学年で学習した漢字の読み書きについて、定着が不十分な児童が見られる。 ・ローマ字学習の習熟の不足がみられる。 ・第5学年の「文章を書く」の分野では、3割の児童が目標値を下回っている。
算数	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4学年の「数直線上に示されて分数の読み取り」が、本調査目標値より9ポイント下回っている。 ・第5学年の「平行四辺形の作図」が目標値より18ポイント下回っている。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算やきまりについては理解しているが、考え方の説明が苦手である。 ・「分数」の量感や「平均」で0がある場合の平均の求め方が理解できていない。
社会	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4学年の「地図の読み取り」や「地図記号の理解」で目標値を6～10ポイント以上下回った。 ・第5学年の「くらしを支える水の学習」において、節水のための工夫を考える項目が目標値を下回り、理解が二極化している傾向がある。 ・どの学年においても資料を読み取り考察する力に課題がある。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの学年でも、資料からの読み取る力に課題がある。特に、複数の資料がある場合に理解できない児童がみられる。 ・第6学年の「国土」「環境」「情報」については知識理解が低い。
理科	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4学年においては、ほとんどの領域で区平均や目標値を下回っている。 ・第5学年においては、ヒトの腕の筋肉の動き方の理解に課題が見られる。 ・第6学年においては、「もののとけ方」や「けんび鏡の使い方」、「どんぐりの養分について仮説を立て、問題を解決する実験の方法を構想し、指摘できる」という問題で誤答が多かった。実験道具の使い方等の知識・技能、実験の流れ、解決方法の立案に課題が見られた。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4学年においては、植物の育ち方の理解や植物を育てる経験が不足している。 ・理科の基礎基本となる用語や事象を活用できていないことが考えられる。

英 語	<p>【４月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日常会話の理解（聞き取り）」や「アルファベットの書き（小文字、聞き取り）」で誤答が多かった。 <p>【１０月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの音声に慣れていない児童がみられる。 ・大文字と小文字をかき分けることが苦手である。
体力向上	<p>【４月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の動かし方や道具の操作に課題が見られる。また、持久力にも課題が見られる。 ・体力テストの結果では、全国平均と比べて、握力・長座体前屈・ソフトボール投げが、男子、女子ともに低い結果となっている。全国平均よりも著しく平均が低いのが、握力である。 <p>【１０月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボール投げの平均記録が全学年男女ともに全国平均を下回っている。 ・握力の平均記録が全学年男女ともに全国平均を大きく下回っている。

２ 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

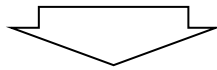
	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	<p>【４月】</p> <p>令和６年度学習力サポートテストのすべての実施学年で、文章を書く領域の数値が低い傾向にあるため、令和６年度の数値から５ポイント上回ることを目指す。</p> <p>【１０月】</p> <p>各学年、漢字のワークテストにおいて、平均正答率を８０％以上にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用し、ドリルパークなどで漢字を繰り返し練習する時間を設けて定着を図る。 ・視写やモデル文を活用して書いたりする活動を増やし、漢字を日常の中で書く機会を意図的に設けることで、注意深く読んだり、書いたりする力を養う。 ・ペアやトリオなど様々なグループ形態での学習活動の中に伝え合いの場面を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ・タブレット学習のみならず、ノートやワークシートなど、書く機会を意図的に設ける。
算 数	<p>【４月】</p> <p>令和６年度学習力サポートテストのすべての実施学年で、変化と関係において令和６年度の数値から３ポイント上回ることを目指す。</p> <p>【１０月】</p> <p>かけ算の考え方がりかいできるために低学年においてかけ算九九を児童の８０％以上が暗唱できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科主任を中心に、学習の進め方、板書、ノートの使い方などについて教員間での共通理解を図る。 ・各単元の学習前にレディネステストを行い、個々の学習状況を把握し、本人の意思も考慮しながら習熟度別グループを編制する。 ・朝学習を週２回設定し、東京ベーシック・ドリル、ドリルパーク等を活用し、学年の課題となっている項目を中心に基礎・基本の定着を図る。 ・図形の学習では、正しく作図ができるように個別指導を丁寧に行う。 ・３年生以上の希望者を対象としたアフタースクールにおいて、個別に指導を行い、基礎・基本の定着を図る。 ・単元の終了後も、時間が経ってから数量関係等、児童の苦手意識が高かった単元の学習を積極的に取り入れる。

社 会	<p>【４月】</p> <p>令和６年度学習力サポートテストのすべての実施学年で、基礎の部分で区の目標値を下回ったため、令和６年度の数値から５ポイント上回ることを目指す。</p> <p>【１０月】</p> <p>各学年、資料を読み取り考察したことを書く問題の無回答を５パーセント以下にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取り、活用する活動を意図的に取り入れるとともに、自分の考えを記述する活動を毎時間行う。 グループ学習、学級全体での話し合いなど、様々な形態の活動を設定し、思考力・判断力・表現力を育む。 基礎基本となる用語をしっかりと指導する。 資料の読み取り、活用する活動を意図的に取り入れるとともに、自分の考えを記述する活動を毎時間行う。また、伝え合う活動も取り入れ、自身の考えについて深めさせていく。
理 科	<p>【４月】</p> <p>令和６年度学習力サポートテストのすべての実施学年で、思考判断表現の領域が低かったため、令和６年度の数値から１０ポイント上回ることを目指す。</p> <p>【１０月】</p> <p>動植物と直接触れあう場面を設定し、児童の興味、関心を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観察・実験の器具等の使い方の指導を徹底し、安全に正しく使用する知識と技能を身に付けさせる。 タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用して事象提示や記録方法を工夫し、再現が難しい実験などの記録を補完する。 問題から仮説、見通し、方法、結果、考察までの流れがつながるようノート指導を徹底する。 実験結果の読み取りについて、「結果の極意」を用いて改めて指導する。
英 語	<p>【４月】</p> <p>今年度も引き続き、基礎も活用も目標値を目指す。</p> <p>【１０月】</p> <p>ローマ字で書かれた自分の名前を読むことができ、大文字と小文字を分けて書くことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 英語を使って授業が進められるようにClassroom Englishの掲示をするなど、聞き取りや発話につなげる環境づくりをする。 英語講師、ALTと個別に対話する時間を毎時間設ける。 英語の語彙や表現を増やすために、ALTの発音を繰り返し練習する態度を育てる。 第５、６学年においては、パフォーマンステストを実施する。 音声に慣れさせるために、音楽科で英語の歌に触れさせる。
体力向上	<p>【４月】</p> <p>体力調査において、男女ともに、ソフトボール投げと握力の平均値を目指す。</p> <p>【１０月】</p> <p>体力調査において、握力の値を平均0.5kg上げる。</p> <p>ソフトボール投げで東京都の平均値を超える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な体の使い方や体力向上について学ぶために走り方教室を実施する。 ボールを遠くへ投げる体の使い方について学ぶために投げ方教室を実施する。 年間を通して、ボール投げなどボールを自在に扱う運動を短時間・複数回取り入れることで投力の向上を図る。 器械運動領域の学習では、安全面の配慮も兼ねて手指の運動を取り入れることで握力の向上を図る。 マイスクールスポーツである短縄の取り組みを強化し、持久力と握力の向上を図る。 縄跳び教室を実施し、技能を向上させることで運動への意欲を高められるようにする。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、視覚的に分かりやすい授業を工夫する。 ・各教科において、個、グループ、全体という授業の流れを一定にする。

探究的な学びの充実	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・理数教育を推進し、問題解決型の授業や体験的な活動を取り入れた学習を行う。

読解力の育成	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館指導員の活用や図書委員会の活動を通し、本に親しむ読書環境の充実や、読書意欲の向上を図る取組を実施する。



3 取組結果の検証

	令和7年度の取組の成果	令和7年度の取組の課題と解決策
国 語		
算数・数学		
社 会		
理 科		
英 語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成	
成果と課題	